
柏原駅東地区に関連するまちづくりの潮流と
今後の取組の流れについて

■まちづくりに関する潮流

社会の動き

- 全国の人口減少を背景に、知識集約型経済の拡大、働き手・働き方の多様化、自治会組織等の機能低下などの社会の動向が複雑化している。
- 一方で、**多様な人々の出会い・交流を通じたイノベーションの創出**や**人間中心の豊かな生活を実現**し、まちの魅力、磁力、国際競争力が向上することにより、内外の多様な人材、関係人口をさらに引き付ける好循環が確立された都市の構築につながることを期待されている。



人が中心となった「居心地が良く歩きたくなるまちなか」
(まちなかウォークブル) からはじまる都市再生の取組推進を支援

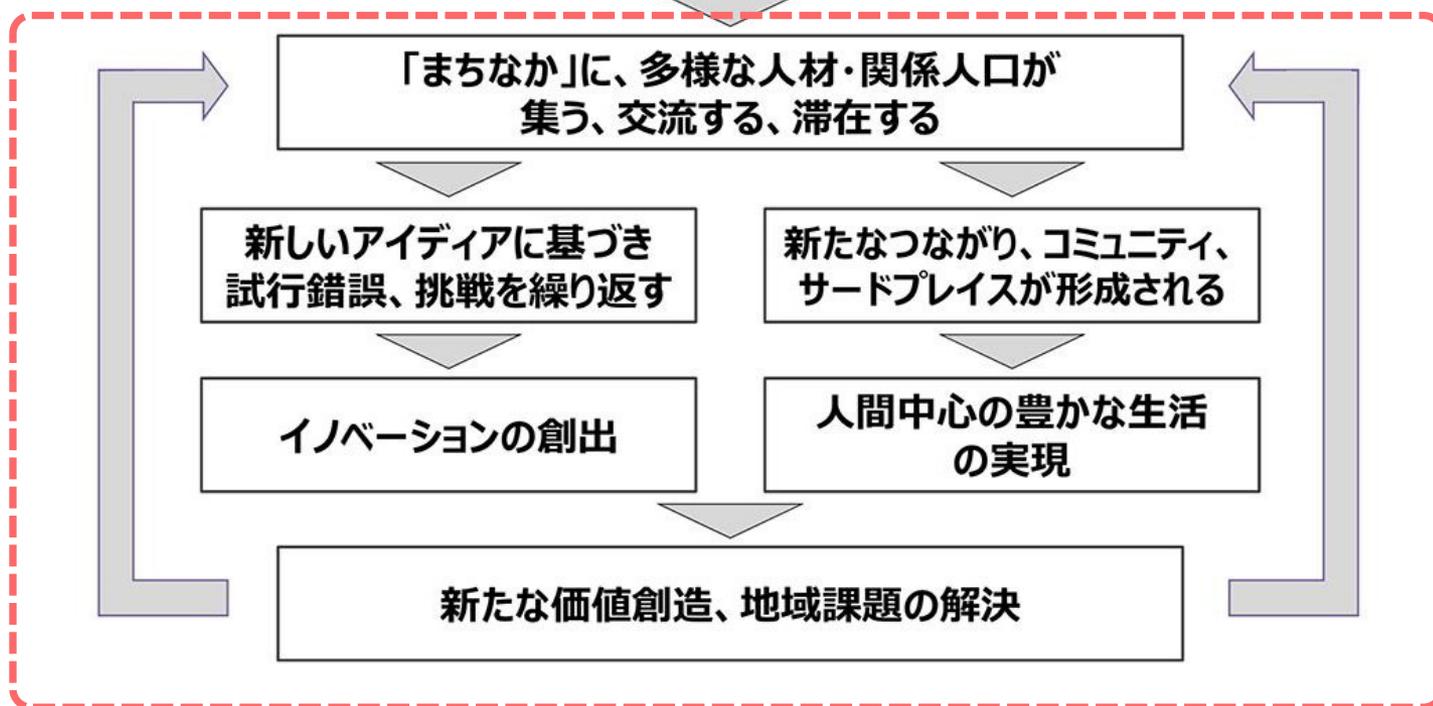
国の動き



なぜ、人中心の「まちなか」づくりが必要なのか？

好循環が生まれるための取組を進めることが必要

「居心地が良く歩きたくなるまちなか」	
Walkable	歩きたくなる
Eye level	まちに開かれた1階
Diversity	多様な人の多様な用途、使い方
Open	開かれた空間が心地良い



居心地がよく歩きたくなるまちなかのイメージ

まちなかの歩けるエリアを対象に、**公共空間**（街路、広場など）や**民間空地**、**建物1階**などの**官民空間**をエリア一体でリノベーションし、官民が連携して使いこなす。

キーワード (We Do!)

Walkable

歩きたくなる

Eye Level :

まちに開かれた1階

Diversity

多様な人の多様な用途、使い方

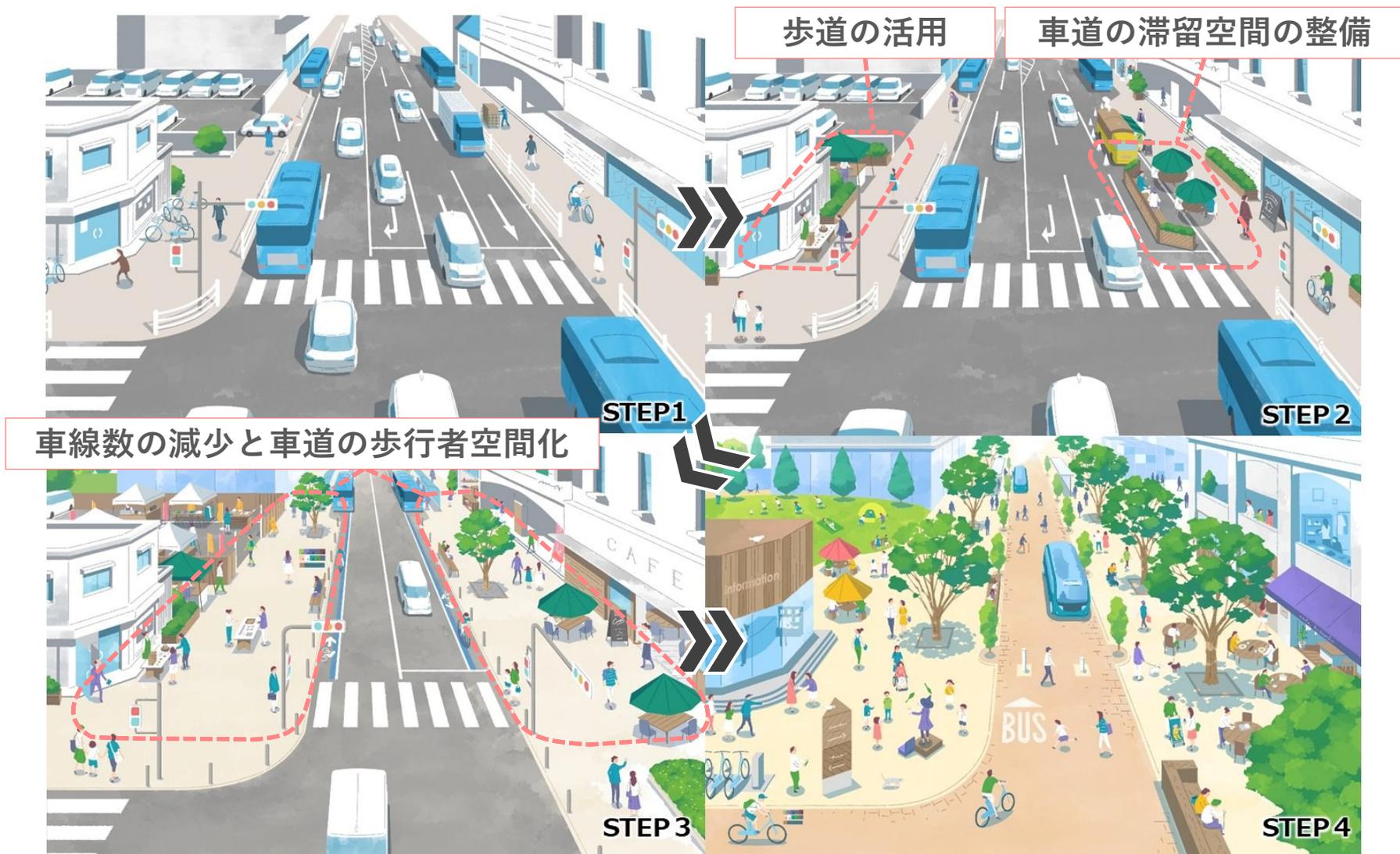
Open

開かれた空間が心地よい



まちづくりに関する潮流

居心地がよく歩きたくなるまちなかの変遷イメージ



Walkable：歩きたくなる

- 歩行者が安心して歩ける人中心の歩きやすい歩行空間を整備することで、まちへ出かけたくなり、歩きたくなる環境をつくる。

■街路等の芝生化や高質化



■道路空間の歩行者専用化



出典：まちなかウォークブル推進事業について（国土交通省）

Eye Level：まちに開かれた1階

- 街を歩く人々の目線に合わせた環境整備やデザインを行いまちに開かれた1階をつくることで、まちなかで歩く楽しさを向上させる。

■ 既存建造物の開かれたリノベーション



空き店舗を改修し、
開かれた1階部分に地域拠点を形成

■ グランドレベルの改修



建物1階部分を透明化し、
まちとの一体感を提供

出典：まちなかウォークブル推進事業について（国土交通省）

Diversity : 多様な人の多様な用途、使い方

- 多彩な業種の店舗や文化施設、オフィスなどの多様な機能導入と共存を図る。
- 多様な文化や目的を持った人が交流し、それぞれが楽しめる空間を整備することが利用者のアクティビティを豊かにし、まち全体の魅力と豊かさへもつながる。

表：アクティビティタイプとその内容

アクティビティタイプ	内容	具体例
必要活動	沿道等の目的地で目的を果たすための通行や立ち止まり	通勤、バス待ち、通行時の休憩、買い物
任意活動	来街者一人であっても楽しめる、地域やストリート景観、自然、雰囲気を感じながらの遊歩、運動、滞在	散歩、まち歩き、ランニング、写真撮影
社会活動	ストリート上に複数の利用者が存在することによるコミュニケーションや出会いに基づく活動	遊び、来街者と住民の会話、生活風景を眺める
地域生活活動	社会活動のうち、特に沿道コミュニティの住民・店主等による日常的習慣としての活動	清掃、挨拶、井戸端会議、植栽の世話、見回り
地域文化活動	社会活動のうち、特に地域性のある祭り等、地域価値を高める目的で組織的に行う活動	祭り、街路市、打ち水、フリーマーケット
表現活動	社会活動のうち、特に芸術的・政治的な表現・言論、エンターテインメント性の高い活動	演奏、演説、大道芸、フラッシュモブ、パレード、募金



図：都市のアクティビティのイメージ

Open：開かれた空間が心地よい

- まちの中に誰もが気軽に立ち寄れ、参加できる芝生やオープンテラス、椅子があると、そこに居たくなる、とどまりたくなる。

滞在快適性施設の設置



イス・テーブル等の設置

公共空間の暫定活用（社会実験）



芝生広場の設置



店舗と植栽空間の設置

出典：まちなかウォークブル推進事業について（国土交通省）

居心地がよく歩きたくなるまちなかのイメージ

重要なことは、どのような暮らしをしたいかということ



理想の暮らしのシーンを考え、
その実現に向けて官民連携で都市空間をつくり、つかうということ

アクションの積み重ねから
まちづくりのハード・ソフトの取組の方向性を導く

暮らしのシーンに向けて、パブリックスペース等を使ってみる

試行
段階

アクション見直し

アクション見直し

アクション

アクション



検討
段階

理想の暮らしのシーンを考える

今年度のまちづくり会議、
ワークショップで明らかにする

まちの
将来像

心地よく暮らす、○○らしい○○ができるまち

ー水の暮らし、○○の暮らし、巡る暮らしー

暮らしの
シーン(例)

来訪者(32歳、女性)

- 自転車で駅から川、○○エリアまでサイクリング。
- 帰りに居合わせた人たちと水辺やまちなかで乾杯。



地域の子ども(9歳、男児)

- 放課後に友達と商店街で絵描きワークショップへ。
- ワークショップ後は、芝生の広場で友達と遊ぶ。



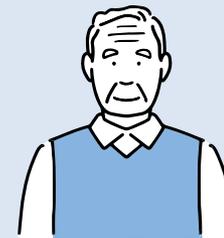
子育て中の親(36歳、女性)

- 平日は高知市で時間をかけずに働く毎日。
- 休日子育て相談の拠点で知り合ったママさんと芝生の広場や水辺で交流。



地区の高齢者(75歳、男性)

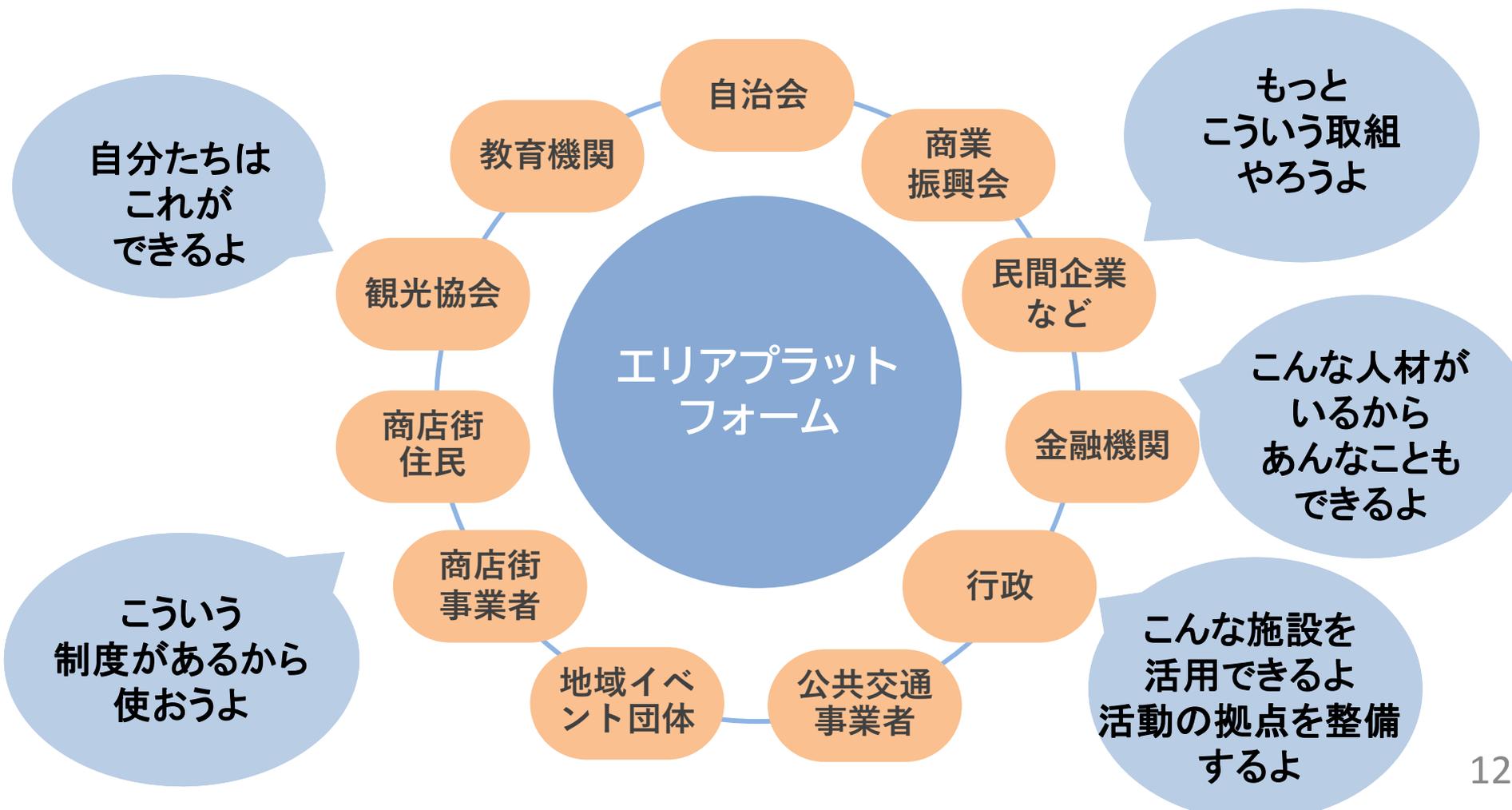
- コミュニティ拠点で、地域の文化をみつけるプロジェクトの会合に参加。



コンセ
プト(例)

- 通勤通学の利便性を活かした、○○らしい暮らしを育むまちづくり
- 地区内外の多様な資源をつなぎ、心地よく巡ることができるまちづくり
- 新たなチャレンジをみんなで育み、みんなで集い暮らすことができるまちづくり

行政主導ではなく、「みんな主導」。共創の枠組み。
「組織運営ファースト」ではなく、「アクションファースト」の枠組み。



まちづくりを進める全体像

R6~7
年度の
取組

まちづくり施策の検討
(地区の方向性を明確化・共有)

推進組織の構築



「居心地が良く歩きたくなる」空間の整備



官民連携による
持続的なまちづくり
活動

社会実験
かわまちづくり
その他の活動 等

推進組織の育成
(持続可能なエリア
マネジメント)

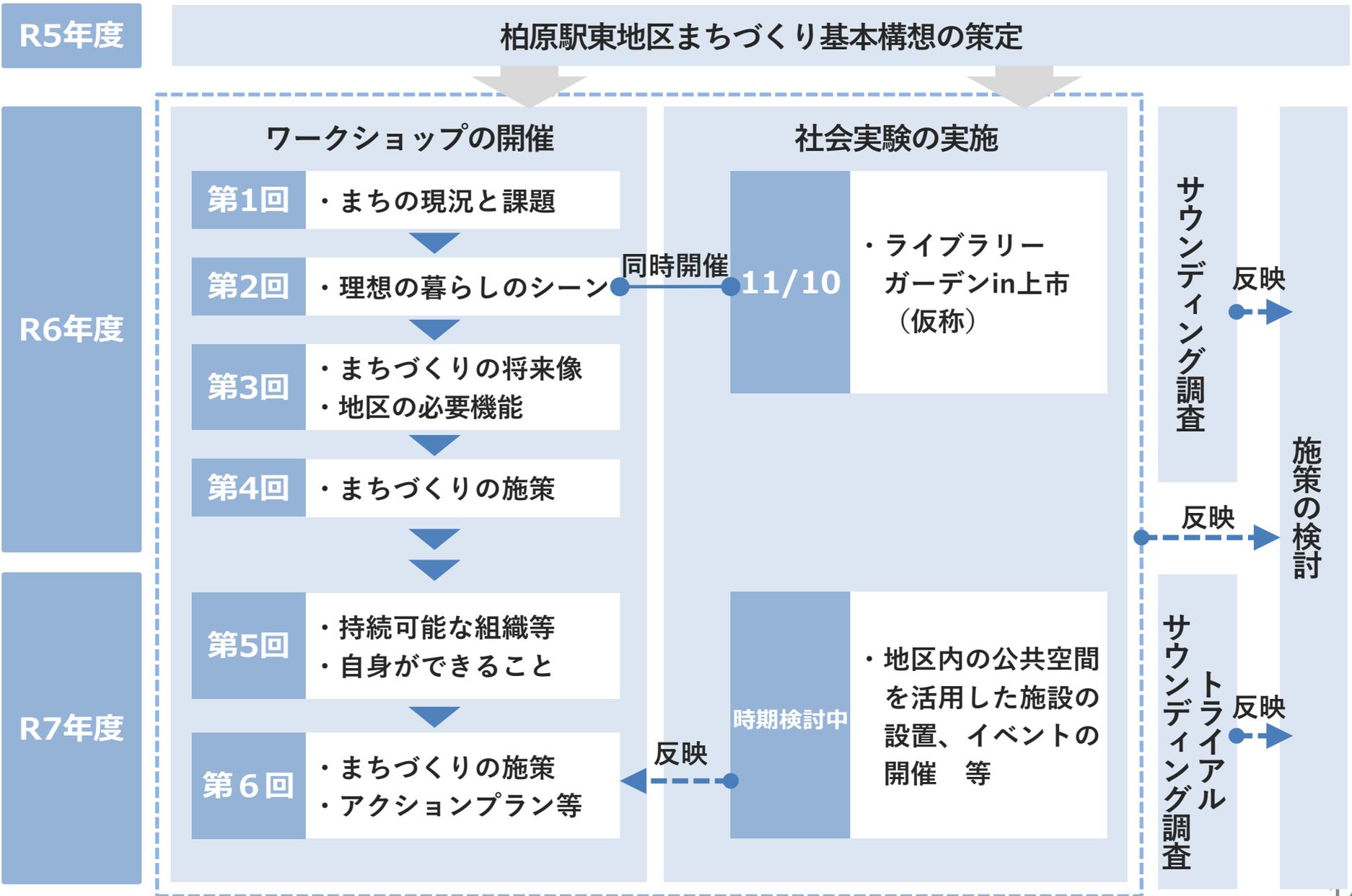
対応する
フィールド

公共用地 (道路・広場・公園等)

民有地

一連の取組を支えるための行政の役割を今後考えることも必要

■R6～7年度のワークショップの流れ（予定）



※ワークショップのテーマは現時点の案であり、今後変更の可能性があります